

自主的、実践的に活動できる児童の育成

—縦割り班活動における評価と一押しポイントを通して—

特別活動班 青山 正（小学校教諭）

主題設定の理由

現状は

- ・小規模校で学年を問わず仲はよいが上下関係もあまりない
- ・縦割り班活動のマンネリ化
- ・リーダー性があまり見られない

そこで

縦割り班活動で

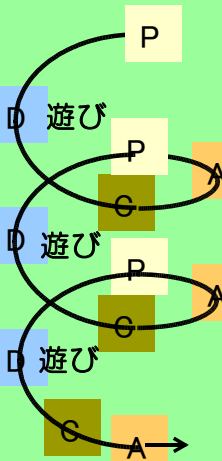
- ・遊びが具体化するよう、活動計画書に一押しポイントを書けるようにする
- ・次の活動につながるように、多面的に評価できるようにする
- ・自信をもって取り組めるよう縦割り班活動を何度も繰り返す（PDCAサイクル）

すると

自主的、実践的に活動できる児童

実践

縦割り班活動では!!



経験を重ねることによって自信と知恵をつけ、自主的、実践的に取り組めるようになっていきました



P 計画

「一押しポイント」
思いをもって遊びを構成し、遊びの工夫を具体化する
【例】意見が多いもの
↓
楽しい遊びを二つ組み合わせた
↓
低学年は2回チャンスあり

遊びのおすすめポイントは何か？

1年生がまた笑ってくれる遊びにしよう

評価を活かして次はもっと楽しい遊びにしよう!

ルールをもっとわかりやすくしよう

A 次に活かす

D 遊び

つかまっちゃう。やっぱり6年生は、すごいなあ

少しゆっくり追いかけてあげよう

低学年の子が楽しんでくれてうれしいな

今回の遊びはどうだったかな？

「下級生用掲示」

「5,6年用掲示」

「振り返り集計」

C 評価

「評価」
リーダーのがんばりを写真で紹介したり、下級生や先生の評価を次回に生かせるようにしたりする

成果

- 一押しポイントを書くことによって、遊びをただ考えるのではなく、遊ぶ下級生のことにまで思いをはせ、創意工夫をするようになった。
- よい評価も悪い評価もリーダーとして活動する児童にとっては大きな励みとなり、よりよい活動になるように進んで取り組む原動力となった。
- 計画（P）→遊び（D）→評価（C）→次に活かす（A）の一連の活動を繰り返したことによって、次にどうすればよいか分かり、リーダーとしての活動にも慣れ、自信をもって自主的、実践的に取り組めるようになってきた。

課題

- 遊びを工夫する時には、机上の空論で計画を立てさせないで実際に事前にやってみるなど、運営まで見通した計画作りができるようにしていきたい。
- 本校は小規模校なので、比較的場所は自由に使っても問題はなかったが、おにごっこやケイドロなどをやる時は、走る場面が重なり、危険な場面も見られた。場の設定も大切な要素であった。

